

## 湘南のカラス

大森 海太

昨年末の冬至の日、いつもの仲間といつもの湘南CCでゴルフの打ち納め。この時期にしては珍しく暖かい日だったが、インの十五番ホールに来るころには、早くも日が傾きかけて少し寒くなってきた。

ティーショットを打ち終わってフェアウェイの二打目地点にさしかかったところ、右サイドの十六番ホールとの間の松の木の上で夥しい数のカラスが乱舞して、てんでにカアカアと壘声を張り上げている。気になってショットに集中できないが、「うるさい！ 静かにせんか」と言っても聞く相手ではない。

続く折り返しの十六番ホール。二打目地点でグリーンが空くのを待っている、先ほどの松の木の上のカラスはさらに数が増えたようだ。湘南には何百本も松があるのに、なぜかこの二本の木に集まってきた、アチコチの枝にとまっている奴、その間を飛び回っている奴、よく見ると海のほうから帰って来る奴などでますます喧噪をきわめ、その数は二、三百羽を下るまい。

湘南では数えきれないほどゴルフをしたが、ここにカラスの巣があるとは初めて知った。

このフェアウェイやラフには、ミミズが這い出したと思われる小さな土の盛り上がりが無数にあり、カラスにとっては格好のエサ場になっている。数十羽が集まってお食事のところへ球を打ち込んだりすると、いっせいに飛び上がる。

ゴルファーにとっては邪魔なカラスだが、カラスから見ればもともとここは俺たちの縄張りなのに、人間どもがゴルフなどしやがってということかも。でもあんなに大勢で食べつくしたらミミズが絶滅するのではないかと心配になるが、毎年同じような光景が見られるのだから、地面の下ではちゃんと世代交代が行われているのだろう。

カラスはゴルフカートに置いてある飲食物をつついたり、プレイ中のボールをくわえてどこかへ隠したり、いろんなイタズラをする。それに声は悪いしちっとも可愛くないけど、文句を言っても「カラスの勝手でしょ」とうそぶいているみたいだ。